

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

プリントを使って授業を進めるため、よほど意識の高い学生でないと、手を動かさないままで終わってしまう可能性がある。また、大人数の授業のためやむを得ない面はあるが、授業中に発言や質問をする機会は少ない。授業の最後に次回の授業内容を予告し、関連する言語現象に関心を持った状態で次の授業に臨んでもらいたいと考えているが、授業外で内容を振り返り次回の内容について考えてくるようなことは、なかなかできていないのが実状のようである。

学生の授業満足度

授業の満足度は概して高い評価が出ている。やはり学生（のみならず人間全般）にとって、最も身近な存在である言語を扱っているためだと思われる。内容も音声学から語用論まで、広く取り上げているため、少なからずどこかの分野で面白みを感じるものと思われる。また、実際に今の大学生が使っている言葉についても考察するので、多くの学生は興味を持って授業に臨んでいると思う。

授業改善の課題と方策

プリントに書かれている内容でも、重要語句は板書で確認をし、プリントに印をつける、あるいは補足事項を書き込むなど、手を動かすことのできる指示を与えるようにしていきたい。また、全体に対して挙手によりAかBかを選んでもらうような質問を授業の中に盛り込んでいるが、そういう機会は今後も増やしていくつもりである。そのようにして授業内容に関心を持たせれば、自ずと授業外でも言語現象に関心を持ち、自発的に学習するようになると考えられる。

その他

授業中の私語は厳禁としており、私語が聞こえたらその都度、注意を促している。私語のない授業環境を好ましいと感じる学生が多いので、今後も徹底していきたい。